

Ⅲ 「研修講座」の概要

1 研修講座の計画

2 研修講座の実際

(1) 学習指導研究講座①

『学校全体で取り組む「言語活動の充実」について』

(2) パソコンソフト活用研修講座

『校務処理に活かすワードとエクセルの連携』

(3) 生徒指導研修講座①

『発達に偏りのある児童生徒への理解と
対応について』

(4) 生徒指導研修講座②

『ネットトラブルの現状とネットトラブルの実際』

(5) ICT 活用研修講座

『ICT を活用した授業改善』

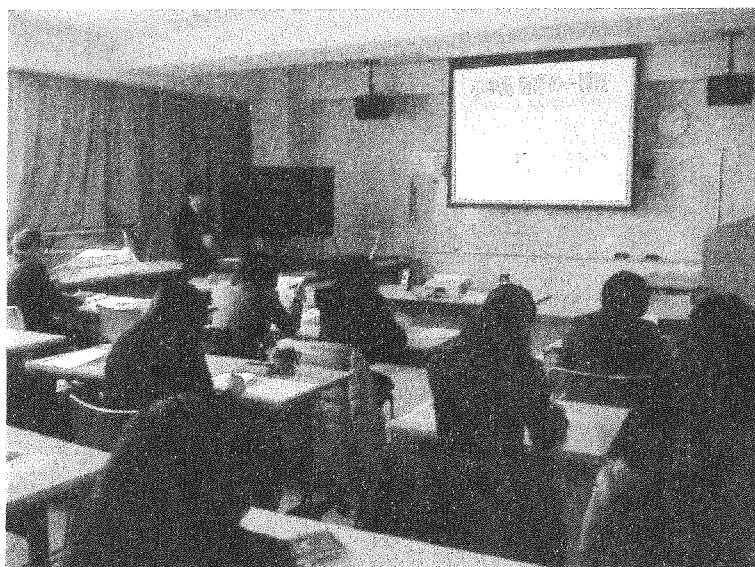
(6) 学習指導研修講座②

『外国語活動の現状とこれから』

1. 研修講座の計画

	講座名・期日・会場	ねらい・講師等	内 容
1	『学校全体で取り組む「言語活動の充実」について』 ・7月28日（月） 地球岬小学校	■室蘭市（自校）の子どもに今求められている学力（思考力・判断力・表現力等と教科の基礎・基本）育成のための効果的な手段・方法としての言語活動の充実に向けた授業改善にどう取り組んでいけばよいかを各校の実践に学ぶ。 《講 師》 室蘭市立地球岬小学校 教頭 中 川 圭 介 氏	○講義 「言語活動の充実を図る指導の在り方」 ○演習 「学校全体での言語活動の改善・充実」
2	『校務処理に活かすワードとエクセルの連携』 ・8月19日（火） 旭ヶ丘小学校	■「エクセル」「ワード」等ソフトの効果的な活用方法を身に付け、日常的な学級・学年経営や校務分掌に活かす。 ■校務の情報化を進めることにより、「業務の軽減と効率化」と「教育活動の質的改善」を図る。 《講 師》 八丁平小学校 榎林 哲也 教諭（所員） 本室蘭中学校 藤田 雅裕 教諭（所員）	○説明・演習 「エクセルで作る名前入り賞状、任命状」 「エクセルとワードの連携した実践的な活用」
3	『発達に偏りのある児童生徒への理解と対応について』 ・9月26日（金） 旭ヶ丘小学校	■発達障害など「特別な配慮や対応が必要な子ども」への理解を深め、その子に合った適切な支援をどのように進めていけばよいのか、具体的な実践例をもとに解決の糸口を探る。 《講 師》 北海道室蘭養護学校 教諭 塩 崎 剛 氏	○講義 ・本人への理解と支援 ・その子を取り巻く周囲や保護者との関わり ・学校としての支援組織体制
4	『ネットトラブルの現状とネットトラブルの実際』 ・11月4日（火） 桜蘭中学校	■児童生徒によるインターネット上の誹謗中傷や個人情報の漏えいなど、問題が増加していることから、インターネット上の未然防止、早期発見・早期対応につながるネットパトロールの知識や技能を身に付ける。 《講 師》 室蘭市立桜蘭中学校 教諭 西 村 雄 一 氏	○説明・演習 「児童生徒のインターネット利用の現状」 「ネットパトロールの実際」

5	『ICT を活用した授業改善』 ～デジタル教科書の効果的な活用と先進校視察報告を通して～ ・1月8日（木） 旭ヶ丘小学校	■学校を取り巻く ICT 環境の整備が進み、新たな機器が教育現場日普及しつつある。そこで、ICT の活用を活かした効果的な活用方法を理解するとともに、先進校の実践例をもとに自校の授業改善に活かす。 《講 師》視察報告 絵鞆小学校 椎 名 孝 教諭（所員） 本輪西小学校 三木 智帆 教諭（所員） 東明中学校 窪田 佳祐 教諭（所員） 《講 師》講義・演習 光村図書出版株式会社 企画開発本部 普及促進部 久松 雅美 氏	○報告 ICT 活用事業先進校視察報告 ○講義・演習 デジタル教科書の活用実践例
6	『外国語活動の現状とこれから』 ～コミュニケーション活動の充実を目指して～ ・1月13日（火） 海陽小学校	■外国語活動の導入から4年目となり、その成果と課題が問われている。 そこで、コミュニケーション能力の素地を養うための具体的な指導の在り方を通して、「小学校における外国語活動の現状とこれから」を考える。 《講 師》 室蘭市立海陽小学校 教諭 相 馬 和 俊 氏	○説明・演習 ・外国語活動の成果と課題 ・コミュニケーション活動のあり方 ・単元構想の仕方と教材開発 ・外国語活動のこれからと最新情報



2 研修講座の実際

●研修講座A 学習指導研修講座

～学校全体で取り組む「言語活動の充実」について～

ねらい

室蘭市（自校）の子どもに今求められている学力（思考力・判断力・表現力等と教科の基礎・基本）育成のための効果的な手段・方法としての言語活動の充実に向けた授業改善にどう取り組んでいけばよいかを各校の実践を基に学ぶ。

講師

室蘭市立地球岬小学校 教頭 中川 圭介 氏

日時 平成26年7月28日（月） 室蘭市立地球岬小学校（参加者34名）

講座の概要

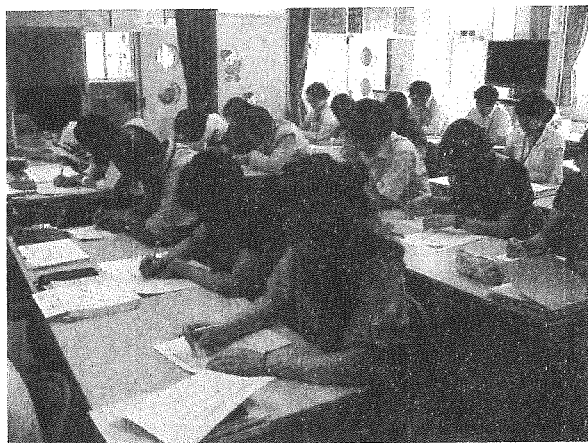
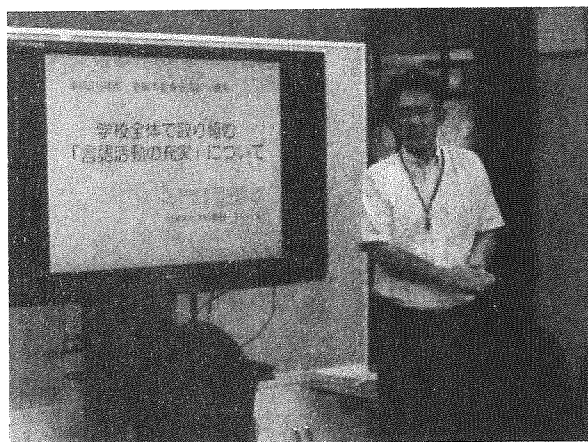
今回の講座『学校全体で取り組む「言語活動の充実」について』は、講師に地球岬小学校教頭の中川圭介氏をお招きして、同校の視聴覚室を会場に実施した。中川氏には、「学習指導要領」や「教育課程改善の手引」等をベースにした講義をしていただき、たいへん有意義な講座となった。

まず、言語活動実施上の課題として「指導のねらいと言語活動との関係がはっきりせず、当該教科等のねらいに応じてどのような力が付いたのか不明確である」こと、「時間がかかることや、指導のポイントがつかみにくいことなどから、言語活動の位置づけを躊躇してしまう」こと、「学習評価との関係をどうとらえるかが不明確なまま指導がなされる」こと等、3点説明があった。

その後、言語活動が重視される背景についての説明があり、国語科における言語活動と各教科等における言語活動の具体的な進め方について

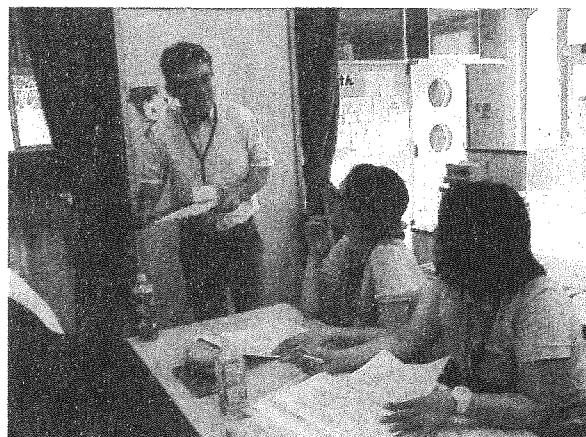
でも示していただいた。「国語では、日常生活に必要な基礎的な国語の能力を身に付けることができるよう、具体的な言語活動を通して指導事項を指導する」、「国語科以外の各教科等では、目標と指導事項の関連及び児童生徒の発達の段階や言語能力を踏まえて、言語活動を計画に位置付けて指導する」事について教えていただいた。

教科毎のポイントも具体的に示していただき、最後に言語環境の整備について、「教師は正しい



言葉で話し、黒板などに正確で丁寧な文字を書くこと」、「校内の掲示物やポスター、児童生徒に配布する印刷物において用語や文字を適正に使用すること」、「校内放送において、適切な言葉を使って簡潔に分かりやすく話すこと」などの大切さを教えていただいた。

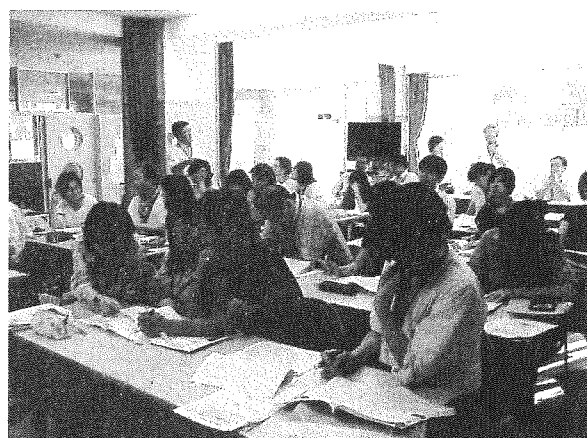
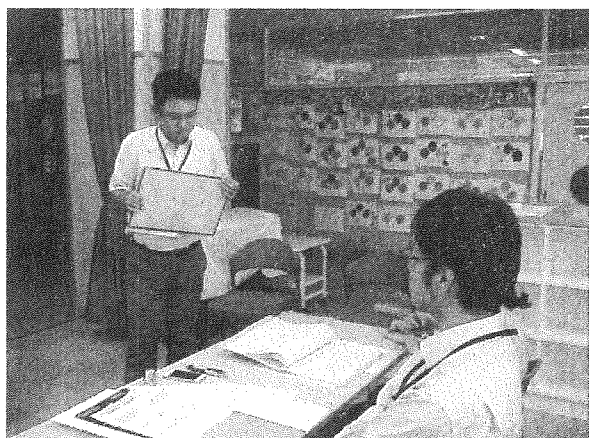
講義の後には、国語の活用問題を実際に解き、活用する力を身に付けさせるための方策を考えたり、各校の言語活動の実態や課題について交流をしたりと、演習を通して言語活動に関する理解を深め合った。内容が濃密かつ盛りだくさんあり、あっという間に時間が過ぎ有意義な研修講座であった。



参加者の感想から ～一部抜粋～

○短時間の中で言語活動の重要性から、各教科での具体的な実践方法まで分かりやすく教えていただきました。学校全体で取り組んでいくためのヒントもたくさんいただきました…

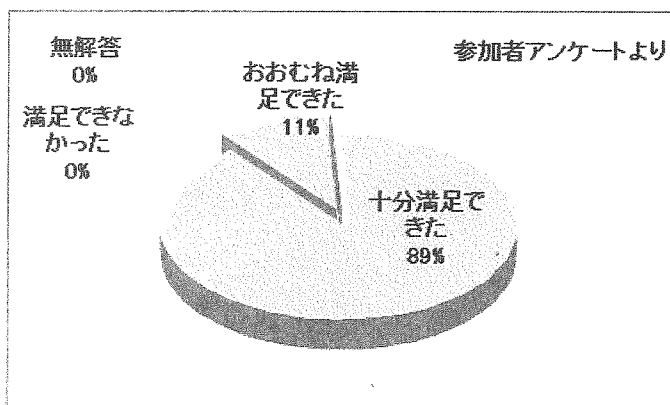
○言語活動に取り組んでいくときに、意図的・組織的に学校全体で系統的立てて取り組んでいくことが重要だと改めて分かりました。自校に戻り、系統表の作成と各教科への位置づけを行いたいと思います…



○どうしても活動ありきになりがちな言語活動でしたが、よきツールとして上手に活用していきたいと考えています…

○国語科だけでなく、他の教科での言語活動についても考えることができました。他教科での充実も心がけていこうと思いました…

○意図的にねらいをもって組み立てていくことや、なるべく多く子どもたちの活動量を確保することの重要性を改めて学びました…



●研修講座D PCソフト活用技術講座

～校務処理に活かすワードとエクセルの連携～

ねらい

- ・「エクセル」「ワード」等ソフトの効果的な活用方法を身に付け、日常的な学級・学年経営や校務分掌に活かす。
- ・校務の情報化を進めることにより、「業務の軽減と効率化」と「教育活動の質的改善（児童生徒に対する教育の質の向上と学校経営の改善）」を図る。

講師

室蘭市立本室蘭中学校 教諭（ICT情報チーム） 藤田 雅裕 所員
室蘭市立八丁平小学校 教諭（ICT情報チーム） 榎林 哲也 所員

日時 平成26年8月19日（火） 室蘭市立旭ヶ丘小学校（参加者21名）

講座の概要

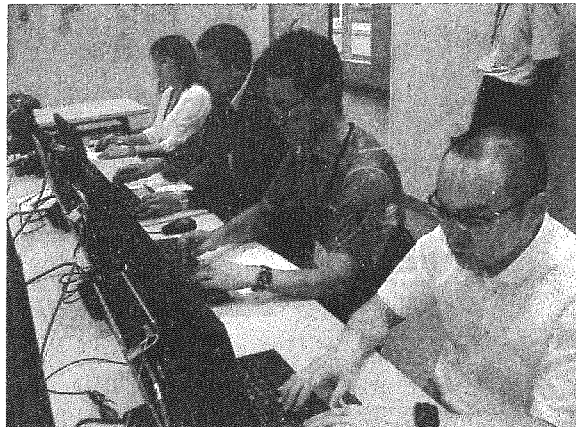
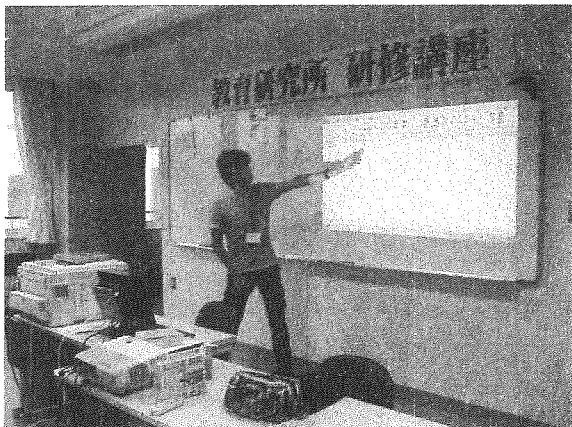
今回の講座「校務処理に活かすワードとエクセルの連携」は、研究所ICT情報チームの本室蘭中学校の藤田所員と八丁平小学校の榎林所員を講師として、旭ヶ丘小学校のパソコン室を会場に実施した。

お二人には、すぐに実践できる技を多々指導していただき、普段より一歩進んだ便利な活用法を研修することができた。

エクセルでは、児童・生徒名簿を基に簡易データベース化を行い、名前とデータを入力するだけで、自動的に名前入りの賞状や任命状などを作成する方法を学んだ。

また、ワードの差し込み印刷機能でエクセルと連携して、名前入りの記録証などを連続で印刷する方法も学んだ。やや高度な内容だが、効率的に校務を進めることができる活用法で、大変勉強になった。

エクセルとワードについては、講座に参加された皆さんが日常からどれだけ活用しているかによりニーズも多種多様になるため、講師のお二人にはご苦勞をおかけしたことと思うが、たいへん有意義な講座となった。



参加者の感想から ～一部抜粋

○教務を担当している事もあり、「エクセル」を使う機会が多いので、実務上すぐに役立てられ
そうな内容で良かったです…

○リンクの方法を学習できて良かったです。しかし、身に付けるためには、努力（日常で使っ
ていく）が必要だと感じました…

○すぐに活用できる内容で、とても参考になりました。使いこなすことにより、もっともっと
仕事が進めやすくなる事が分かりました…

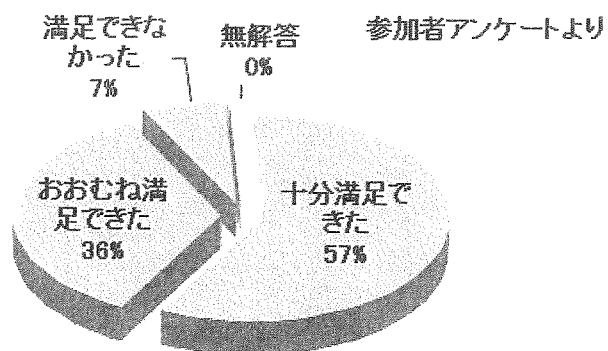
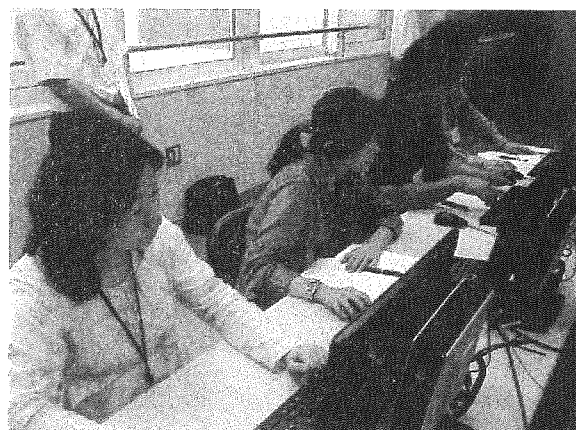
○初級・中級など分けていただけるとありがたい…

事務局として検討していきます。



○基礎的なことからスタートし、高度なところま
でみんなが分かりやすく指導していただきあ
りがございました。後半は理解できません
でしたが、データのお土産もあり、今後も頑張
っていきたいと思いました。

○実際にやりながら、また、数式の意味を教えて
いただき、分かりやすかったです。時間がなく、
後半はあまりよく分からなかったもので、もっ
と時間があると良いですね。ありがとうございました…



○1年に1度は、このような講座
に参加して学びたいです。パワ
ーポイントのようなソフトの活
用法にも興味があります…

次年度の検討事項としていきます。

●研修講座C 生徒指導研修講座

～発達に偏りのある児童生徒への理解と対応について～

ねらい

発達障害など、「特別な配慮や対応が必要な子ども」への理解を深め、その子に合った適切な支援をどのように進めていけばよいのか、具体的な実践例をもとに解決の糸口を探る。

講師

北海道室蘭養護学校 教諭 塩崎 剛 氏
(室蘭市特別支援教育コーディネーター)

日時 平成26年9月26日(金) 室蘭市立旭ヶ丘小学校(参加者33名)

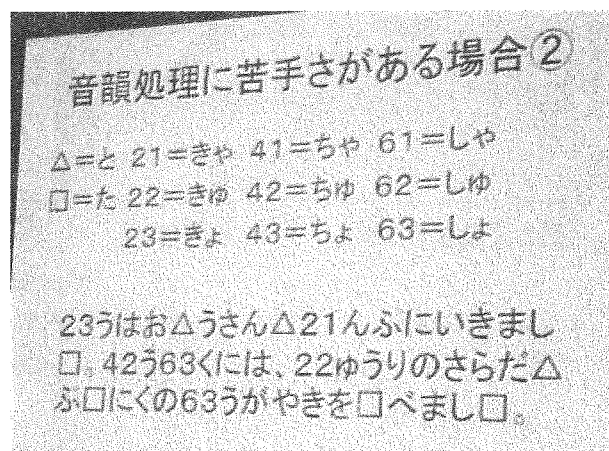
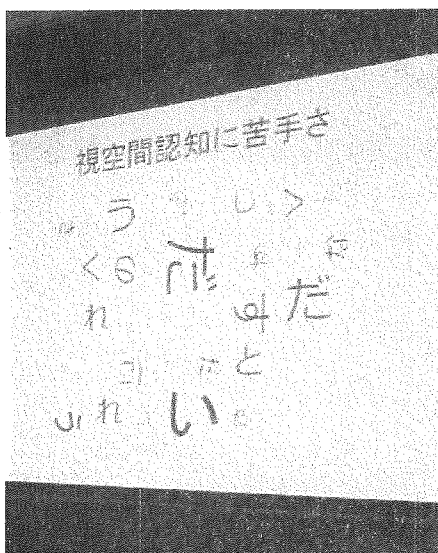
講座の概要

今回の講座「発達に偏りのある児童生徒への理解と対応について」は、講師に室蘭養護学校の塩崎剛氏をお招きして、旭ヶ丘小学校の視聴覚室を会場に実施した。塩崎氏は室蘭市の特別支援コーディネーターとして、室蘭市の特別支援教育を支えて下さっており、長年の経験を生かし、児童生徒のみならず、保護者対応についてもご指導いただいた。

まず、発達障害とは何かという、基本的な部分から説明していただいた。

※以下、囲み内は塩崎氏の講座内容から

発達障害とは、「発達の凸凹」+「学習活動や社会活動に適応しきれない状況」と考える。
発達障害と言われてしまうと、それで一括りになってしまうが、運動が得意・苦手、芸術系が得意・苦手、作文が、料理が、勉強が…、また、多人数が好きな人、一人が好きな人等、色々な人がいるので、これらを凸凹と捉えてみるとよい。発達の凸凹があっても学校や社会に適応して生活している人もたくさんいる、**発達の凸凹＝発達障害というわけではない。**



発達の凸凹を抱える子の困り感を表した例。

(塩崎氏講座資料より)

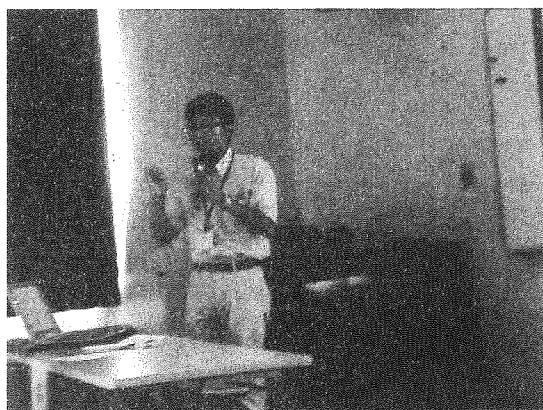
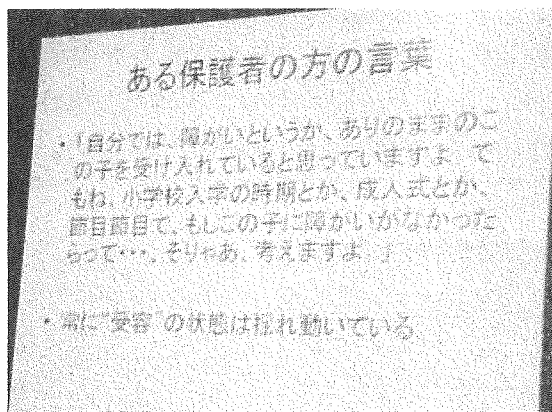
更に、児童生徒への支援方法の実際について教えていただいた。

○色々な人が凸凹をもっていて、それを発達のアンバランスと考えていくことが、児童生徒にとって好ましい支援の方法を見いだすことにつながる

- ・字義通りに捉える子どもや極端な凸凹のある子どもには、例外を教えたり、小さな変更を経験させたりすることが大切。ただし嬉しい（子どもにとって楽しい）例外や変更が大切で、その経験から、意図しない例外や変更でも、少しずつ受け入れる（我慢や妥協する）ことができるようになっていく。
- ・書く、読む、形を認識する、コミュニケーションを図る等、様々な苦手分野があるが、その分野の中でも子どもによって、捉え方や見え方、感じ方が違う（音読の際「文字が躍っているように見える」「どこで区切っていいのか分からない記号に見える」等）ことを理解する。
- ・発達に偏りがある子どもにおいては、気をつければできる、丁寧に意識すればできる…というレベルの話ではない。また、本人が自分の苦手さに気がついていないことが多いので、その子に適した配慮をしつつも発達の段階に応じた指導が必要である。

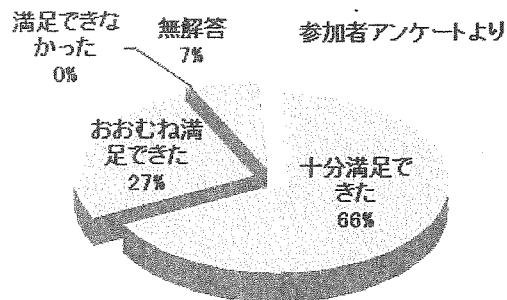
最後に、保護者との関わりについてお話いただき、塩崎氏の実践・体験に基づいた、たくさんさんの事例を教えてください。貴重な時間となった。

- ・子どもの自己肯定感を大切にすることは勿論だが、子どもと毎日向き合っている保護者（母親）の自己肯定感も大切にしていきたい。（子ども自身も保護者も困っていて、何とかしたいと思っているが、周囲から誤解されることが多い。）
- ・子どもが周りから褒められる、評価されることが保護者にとって一番自己肯定感が上がると言われている。子どもへの適切な支援や指導と保護者への共感、保護者との協力を大切にしていきたい。



参加者の感想から ～一部抜粋～

- 様々な事例を知り、次に会う子どもたちを少しでも理解して接することができるかと思います…
- 特別支援との関わりは少なかったのですが、凸凹を体験できる場面もありとても勉強になりました…



●研修講座C 生徒指導研修講座

～ネットトラブルの現状とネットパトロールの実際～

ねらい

児童生徒によるインターネット上の誹謗中傷や個人情報の漏洩など、問題が増加していることから、インターネット上のトラブルの未然防止、早期発見・早期対応につながるネットパトロールの知識や技能を身に付ける。

講師

室蘭市立桜蘭中学校 教諭 西村 雄一 氏

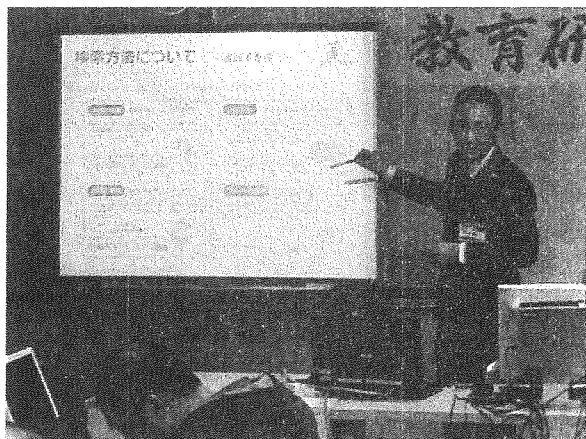
日時 平成26年11月4日(火) 室蘭市立桜蘭中学校(参加者23名)

講座の概要

今回の講座「ネットトラブルの現状とネットパトロールの実際」は、講師に桜蘭中学校教諭の西村雄一氏をお招きして、同校のパソコン室を会場に実施した。西村氏には、最新の情報を分かりやすく伝えていただき、「便利なはずのGPS機能により個人の居場所を特定される危険性」や「Twitterの書き込みで容易に個人が特定できること」、「軽い気持ちでサイトに登録し交流している中で、個人情報の漏洩につながっていること」、「LINEやDSで起こる問題については、現状では何も手立てがないこと」など、たくさんの情報を得ることができた。

講座では、「AND検索」「OR検索」「NOT検索」等の様々な検索方法を指導していただいた。まず「学校非公式サイト」のを見つけ方や「各種掲示板」への書き込みのを見つけ方、「Twitter」の検索方法等を学び、実際にパソコンで検索を行った。目の前で個人情報や不適切な書き込みがどんどん見付き、ネット社会の危険性を肌で感じる事ができた。

次に、不適切な書き込みを発見したときの「削除要請」の方法等を指導していただいた。この講座中にも行われているSNSの世界に触れ、ネットパトロールの大切さを強く感じさせられた。



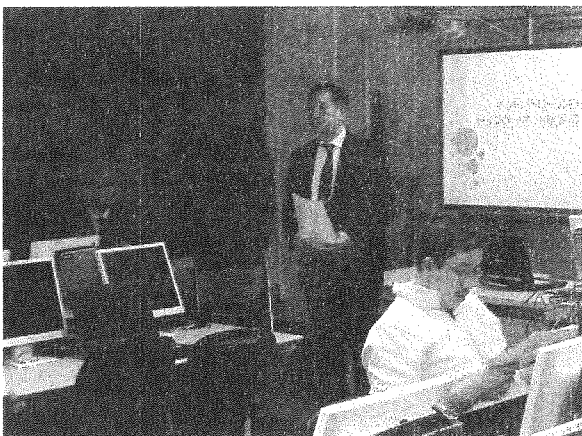
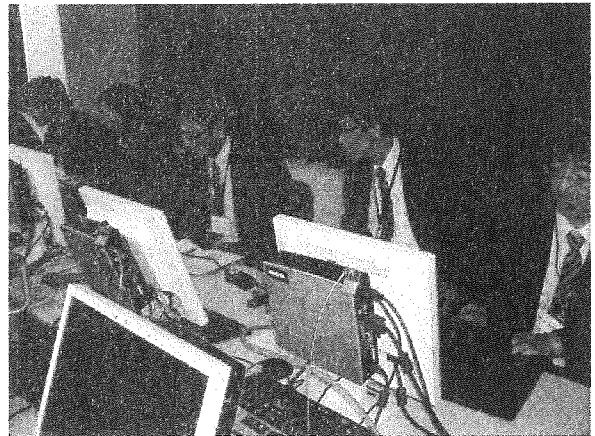
参加者の感想から ～一部抜粋

○小学校勤務ですが低年齢化が進んでいるので、とても役立ちました。「ツイプロ」は知らなかったのですが、今後に生かしていきます…

○我々教師が何も知らないでは困ります。これからの時代、ネットトラブルが増加していく中で、スキルを身に付けていかなければいけないと感じました…

○生徒の写真や実名などの情報がたれ流されている状況を目のあたりにして、自分が知らなかった所で子どもたちが危険にさらされていることを実感しました…

○自分がSNSを全く利用していないので大変勉強になりました。予想以上にSNSは、子どもたちにとって身近であることを実感しました…



○サイトも様々あり、誰でも書き込みができるということなので、今後注意して見るようにしたいと思いました。特に個人が特定できる情報については、しっかり気をつけてチェックしていきたいです…

よく使用される掲示板

(西村氏講座内容より)

2ちゃんねる

(スレッドと呼ばれる話題を検索)

ホストラブ

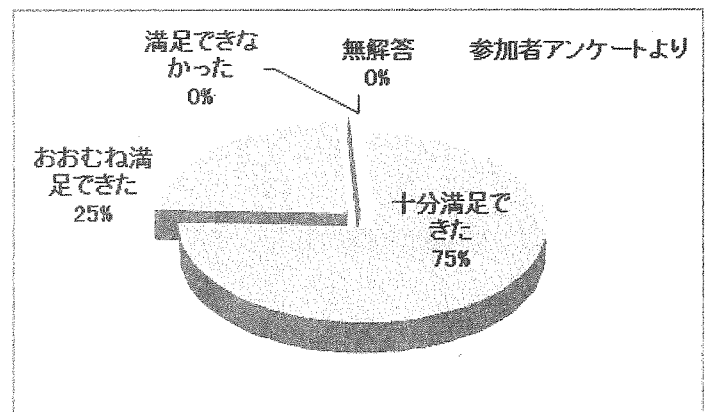
(北海道の学校関係の書き込みが多い)

爆サイ.com

(北海道の学校関係の書き込みが多い)

まちBBS

(北海道の学校関係の書き込みが多い)



●研修講座B ICTを活用した授業改善

～デジタル教科書の効果的な活用と先進校視察報告を通して～

ねらい

学校を取り巻くICT環境の整備が進み、新たな機器が教育現場に普及しつつある。そこで、ICTの特性を活かした効果的な活用方法を理解するとともに、先進校の実践例をもとに自校の授業改善に活かす。

講師

光村図書出版株式会社 企画開発本部普及促進部	久松 雅美 氏
室蘭市立絵鞆小学校 教諭（研究所ICT授業改善チーム）	椎名 孝 所員
室蘭市立本輪西小学校 教諭（研究所ICT授業改善チーム）	三木 智帆 所員
室蘭市立東明中学校 教諭（研究所ICT授業改善チーム）	窪田 佳祐 所員

日時 平成27年1月8日（木） 室蘭市立旭ヶ丘小学校（参加者27名）

講座の概要

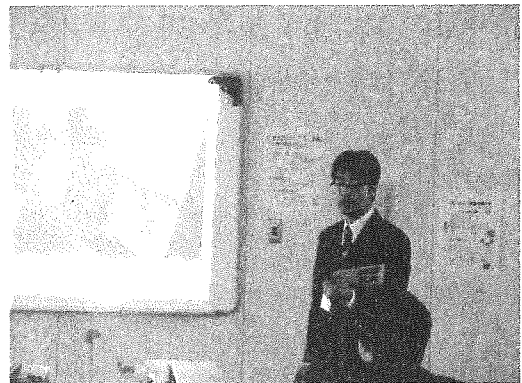
今回の「ICTを活用した授業改善」講座は、旭ヶ丘小学校のパソコン室をお借りしてICT授業改善チーム所員による先進校視察報告とデジタル教科書活用実践講座の2本立てで行った。

まずは先進校視察報告である。先進校視察については、今年度2回実施することができた。

1回目は「第40回全日本教育工学研究協議会全国大会 京都大会」への参加、2回目は「北海道立教育研究所附属情報処理教育センター」での実習と「石狩市立花川小学校」への学校訪問を行った。

椎名所員が参加した「第40回全日本教育工学研究協議会全国大会 京都大会」では、京都市立梅小路小学校での授業参観を行い、先進的なICTの活用事例に触れることができた。

～以下、椎名所員の報告内容概略～

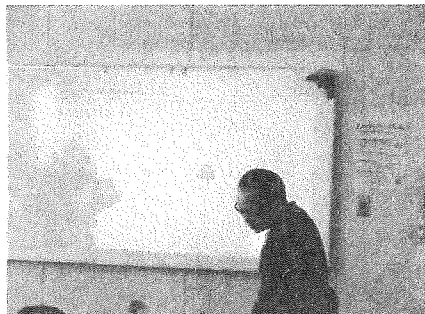


梅小路小学校では、全ての教室に実物投影機・大型テレビ・電子黒板を常設し、液晶画面付きの顕微鏡も配備されている等、ハード面での充実に目を見張るものがあつた。また、タブレットPCの活用が進んでおり、児童のグループ毎にタブレットを渡し、写真やムービーを撮影して情報収集するなど、児童も機器を使いこなしている。タブレットはWindowsと同じ機能を有するため、校内ランを使い教室での調べ学習にも活用でき、校内サーバーを活用して、教師がいつでも児童の作業内容を確認できるシステムが整っている。

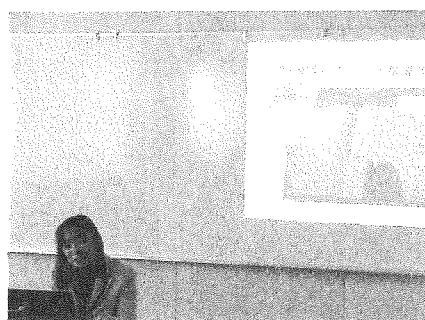
ICTの活用については、使用することはすでに前提条件となっていて、それを踏まえた上での指導法の開発に力が注がれている。さらに、ICTとアナログの棲み分けもきちんと図られ、学習効果を上げている。

I C T授業改善チーム5名が参加した「北海道立教育研究所附属情報処理教育センター」での実習と「石狩市立花川小学校」への学校訪問では、明日からの授業に即活用できそうな事例や、授業参観等を通して先進校での具体的実践例を直接学ぶことができた。

～以下、窪田所員（道研）・三木所員（花川小）の報告内容概略～



道研では、実物投影機や電子黒板の活用を中心に実習を行った。中でも実物投影機の活用については、紙のプリントをクリアファイルに挟み使用することにより、水性ペンで自在に加除することが可能となり、OHPのような使い方ができた。また、穴を開けた画用紙を画像の上に置くだけで穴の中の対象をクローズアップすることができるなど、いつでも簡単に取り組める実践を学ぶことができた。



花川小では、I C Tの活用のみならずI C Tを使って学習効果を上げるための、学校力の充実について学ぶことができた。学習規律、ノート指導の統一や授業中の正しい姿勢の徹底、少人数指導、T T活用、給食前学習会など学校がチームとして機能していた。また、教頭先生が凡事徹底の大切さを何度も語られていたことが印象に残った。

※視察内容については、研究所紀要「授業改善チーム」のページにも記載がありますのでご覧下さい。

次に、デジタル教科書活用実践講座である。光村図書出版株式会社から久松雅美氏を講師にお招きして、27年度版の解説と23年度版を使用しての操作・活用体験を行った。

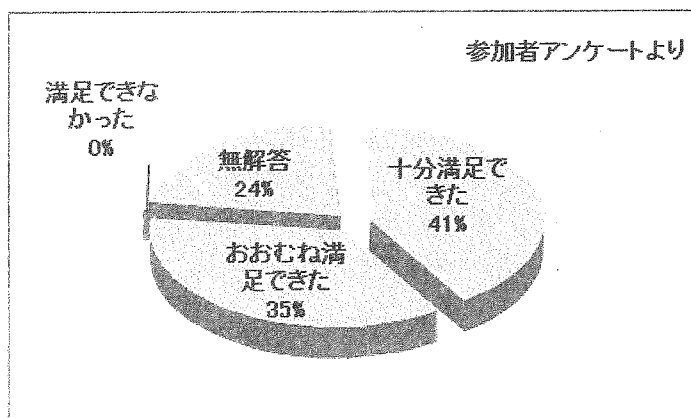


P Cの動作環境が27年度版デジタル教科書に追いついていないため、残念ではあるが23年度版を使っでの実習となった。久松氏に質問しながら各自が自由に教材を選び、授業での活用方法をイメージしていった。

参加者の感想から ～一部抜粋～

○視覚的に子どもたちの興味や関心を引くだけでなく、教師の教材準備にかかる時間も減らせると感じた。使い方もとても簡単であった…

○デジタル教科書を映し出す媒体の吟味、使い方、色々な工夫を凝らせば国語を苦手とする子どもたちが減るのではないかと思った…



●研修講座A 外国語活動の現状とこれから

～コミュニケーション活動の充実を目指して～

ねらい

外国語活動の導入から4年目（移行期を含めると6年目）となり、その成果と課題が問われている。そこで、コミュニケーション能力の素地を養うための具体的な指導のあり方を通して、「小学校における外国語活動の現状とこれから」を考える。

講師

室蘭市立海陽小学校 教諭 相馬 和俊 氏

日時 平成27年1月13日（火） 室蘭市立海陽小学校（参加者25名）

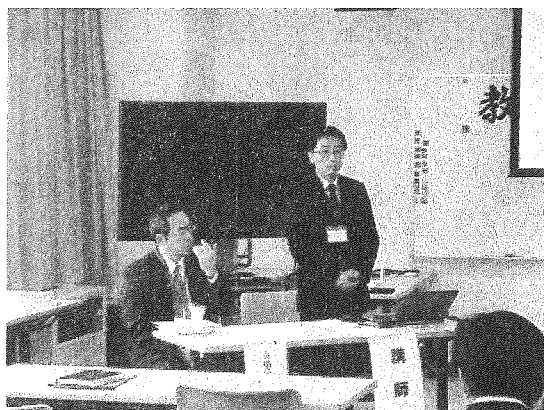
講座の概要

今回の講座「外国語活動の現状とこれから」は、講師に海陽小学校教諭の相馬和俊氏をお招きして、同校の視聴覚室を会場に実施した。相馬氏は、小学校で外国語活動が実施される以前から、総合的な学習の時間を中心に、外国語活動の実践を積み重ねられており、これまでに実践されてきた外国語活動の総時数は1000時間を超えるほどである。豊富な実践から、コミュニケーション活動の実際や教材開発の方法、また、外国語活動についての最新情報等を教えていただいた。

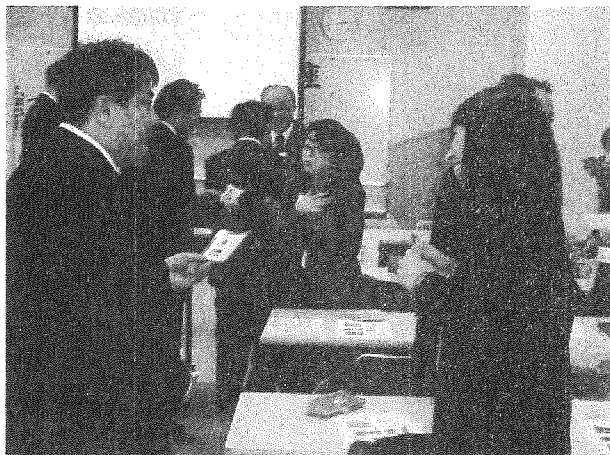
最初に、外国語活動導入の経緯等を説明していただいた。その中で相馬氏は、外国語活動の目標について、「1. 言語や文化について体験的に理解を深めること」「2. 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること」「3. 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと」の3点を挙げられた。外国語活動は決して中学英語の前倒しではないため、求めすぎたり踏み込みすぎたりしない事の大切さや、文字に頼らない音声中心の体験的な活動になる事の大切さを強調されていた。

続いて、コミュニケーション活動の実際を説明していただいた。コミュニケーション活動のポイントとしては「1. 自分自身に関わっていること」「2. 自分の考えや思いで選択・決定ができること」「3. 知りたい・伝えたい場面で行われること」の3点を示していただいた。

更に実際の活動例として、「Hi, friends! 1 What do you like?」から、児童が自分自身の作りたいTシャツの素材を英語表現でコミュニケーションしながら集めて作り上げていく「Tシャツ作り」の実践や、「Hi, friends! 2 Turn right.」から、学校のお気に入りスポットを英語表現で友だちに案内する実践等を紹介していただいた。その際、「望ましいコミュニケーション活動とは、自分自身に関わることを、自分の考えで、自分で言葉を選んで、言いたいことを伝え合うことが大切であり、「ことば」を単なるゲームの道具にしてはいけない。」ということを強調されていた。



また、児童の活動を支える教材開発については、「児童の選択の幅を広げられるもの、児童が食いついてくるもの」となるよう工夫することの大切さについて、自作された教材を紹介していただきながら示していただいた。紹介された教材については、講座に参加された先生方全員



が実際にその教材を使用しながらコミュニケーション活動の体験を行い、教材開発の大切さを肌で感じることができた。

最後に、外国語活動のこれからということで、2020年度の小学校での教科化へ向けて、北海道教育大学での「小学校英語教育指導者資格認定講座」の開設や、小学校教員養成課程での英語2種免許取得についてなど、たくさんの最新情報を教えていただき、大変有意義な講座となった。

参加者の感想から ～一部抜粋～

○教材があるので授業を進めるのではなく、子どもたちが使いたくなるように仕向けるということが大変心に残った…

Ice cream flavors

ババコナッツ	ホワイトチョコレート マカロン	レモンシャーベット	クリームソーダ	カプチーノパンピーン
アップル パイ	ストロベリー	マカロン マカロン	ハワイアンクランデ	ストロベリー ショートケーキ
ダブルチョコレート チーズケーキ	ポッピングキャンデー	パナコッタ	ストロベリー チーズケーキ	ショコラモンブラン
ラズベリー ストロベリー	キャラメルメロン	ラズベリー チーズケーキ	オreo チーズケーキ	抹茶(まっちゃ)
ジャモカコーヒー	マスカルポーネ	ストロベリー チーズケーキ	バナナ プディング	マンゴタンゴ
ティラミス	ココナッツグロップ	オレンジソルベ	ジャモカアーモンド フudge	チョコレート
コットンキャンディ				

Kaiyo elementary school

○外国語の重要さとこれからの不安を感じた、今日のお話を聞かなければ不安さえ気づかずにいたかもしれない…

相馬氏作成の好きなアイスクリームを紹介する教材。児童の選択できる範囲が広くなり、「食いつき」が良い。某アイスクリーム会社の使用許可済みである。

無解答 0% 満足できなかった 0% 参加者アンケートより

